

○「惨状スケッチ 後世に」(110328 読売)

「がれきと化した町の中心部で鉛筆を手に一人でしゃがみ込み、スケッチブックに向かう少年がいる。…「津波の恐ろしさやこの町で起きたことを絵で伝えていきたい」と、生まれ育った町の「今」を描き、残そうとしている」「「病気で苦しんだ末に、津波で亡くなった人もいたはず」。そんな思いを巡らせながら、鉛筆を動かす。大好きな絵を描く時の、いつもの楽しさはないけれど、「愛するこの町はここからスタートするんだ」という強い気持ちがかもっている」「「この町はどうなってしまうのか。自分でできることはないのか……」。幸い無事だった自宅で懸命に考えるうち、「この大地震や大津波を忘れないために、今の町の惨状を絵で記録に残そう」と思い立った」

○「臨時のFM局 続々開局」(110322 読売)

「東北・関東の被災地では、地元のコミュニティFM*が運営主体となる臨時災害放送局が次々に開局し、12局に上る」(*コミュニティFM:1992年に制度ができた。市町村を放送エリアとし、出力は20W以下。総務省によると、全国で244局を数える)

「開局手続きは通常、2か月かかるが、総務省は「非常時だから」と、申請の電話一本で即決している」「日本コミュニティ放送協会によると、21日現在、東北・関東の7県の31局が災害放送を続けている。宮城や茨城には停電中、自家発電でのいた局もある」「ただし、臨時災害放送局になると、CMを入れられない。放送を担い続けるコミュニティFMはこの間、減収を強いられるため、行政や地元のバックアップが今後の課題となる」

○「「不要不急」の消費急減」(110322 日経)

「消費者は直接の被害がなくても、生活を楽しむ心境にはなれないようだ」「百貨店では…。大手書店の…。中堅居酒屋チェーンの…。大手ゴルフ場では…。旅行も…。旅館では…。「消費の押し下げ効果は阪神大震災があった1995年の1兆7500億円を上回る」」

○「小学校に選手派遣」(110326 毎日)

「日本体育協会と日本オリンピック委員会(JOC)、日本サッカー協会は25日、東日本大震災の被災地にある全小学校に選手らを派遣し、子どもたちの心のケアにあたる支援策を固めた。国内の球技団体が集まる日本トップリーグ連携機構や日本オリンピック協会などにも協力を呼びかけ、スポーツ界を挙げて被災地の子どもたちを元気づけるキャンペーンを展開する」「日本サッカー協会が4年前から実施し、サッカーや他競技の選手らを小学校に派遣している「こころのプロジェクト」をベースにする」「被災地への支援では、これまで各競技団体がそれぞれ義援金などを送ってきたが、今回の支援策は今後の復旧・復興期を見据えた長期的なもの」

○「「私らしく」ファッションで応援」(110419 朝日)

「中国最大のネット通販「淘宝」のサイトでファッションリーダーの一人として活躍する日本人女性、TOKYO PANDAさん(27)が、自分の服をネットで販売し、売上金をすべて東日本大震災の義援金にあてる活動を始めた。…▽「自分らしい形で被災地を応援できないか」

と考へ、以前に買った服を売って義援金を送ることを思いついた」

○「「観光立国」ダメージ深刻」(110331 産経)

「放射能漏れが明らかになってからは、重点市場 15 カ国・地域すべてが日本への渡航自粛を決めた」「ホテルニューオータニ大阪(大阪市中央区)は「外資系企業の本社機能の大阪移転で予約が増えた」」「(*観光庁長官は)「被災地以外の観光地のがんばりが、結果として力強いメッセージになる」として、観光を東日本復興のエンジンにしたい考へ。ただ、福島第 1 原発から遠く離れた北海道でも、外国人客は「ほぼ 100%キャンセルが入り、壊滅的」(道観光振興機構)な状況で、回復の道は遠い」

○「電源の燃料尽き魚類など絶望的」(110318 毎日)

「停電した福島県いわき市小名浜の水族館「アクアマリンふくしま」で、急場をしのいでいた電源の燃料が尽きた。海獣など一部は首都圏の水族館に運んだが、魚類、熱帯系植物など計 22 万点はそのまま死ぬ可能性が高い」「11 日の津波で 1 階の電気施設が浸水して停電し、非常用電源も燃料の重油が 16 日なくなった。水槽への酸素供給や水温調節ができなくなり、餌を保管する冷蔵庫も使えなくなった」

○「飼い主待つ極限のペット」(110418 下野)

「「沈黙の町で聞こえたのは、生き残ったペットたちの息遣いだけだった」一。避難指示が出ている東京電力福島第 1 原発の 20 ㎞圏内で 3 日、ペットの保護活動を行った県内動物愛護団体の女性(39)が、下野新聞者の取材に応じた。…▽驚いたのは放浪犬の多さだ。「50 頭以上はいた」。目の回りが黒ずみ、どの犬もあばら骨が見える。…道ばたに落ちたふんには発砲スチロールや、がれきが混じっていた。…▽同行避難できず、また多くの避難所では動物の屋内への連れ込みを禁止するなど、未曾有の原発事故は、ペットと飼い主との生活も引き裂いた」

○「アジア商機 急停止」(110418 朝日)

「大阪の中心地、難波のビル地下にある「聖授会 OCAT 予防医療センター」…▽日本旅行が 2009 年春、中国の富裕層にがん検診を組み込んだツアーを売り出した。10 年の客は前年の 40 人から 250 人に急増。検診費は日本人とほぼ同じ 35 万円。東京や北海道で数泊する客も多く、ツアー費は平均 100 万円、最高は 200 万円に上った」「それが東日本大震災で、中国が被災地への渡航延期を勧告すると、一切来なくなった。▽医療を受けるため海外に行く「医療ツーリズム」。各国の富裕層らに人気が広がり、市場が急成長し、タイや韓国などアジア各国も国を挙げて力を入れる」

「映画やドラマのロケ地を訪ねる「スクリーンツーリズム」は、観光客を呼び込めると注目が高まる。鳥取砂丘や古い街並みが残る倉吉などに関係者を招き、平井伸治知事もトップセールスをかけロケ地を勝ち取った。▽韓国で同年 12 月に放送が始まると、狙い通り韓国人客が急増。鳥取・米子空港—ソウルを運航するアジアナ航空は 1 月から機材を大型化した。2 月の韓国人利用者は昨年 11 月の 2 倍近くの 1664 人。それが 3 月は 529 人に激減した」

○「手書きの壁新聞 歴史の一ページに 米ニュージウム収蔵 石巻日日新聞」(110426 朝日)

「停電と断水。輪転機が浸水し、印刷ができない。6人の記者のうち連絡が取れない者もいる。…ロール紙をカッターで切った壁新聞の発行が決まった」「取材用の車が流され、携帯電話も通じない。胸のあたりまで水につかり、災害対策本部で集めた情報のメモを、記者がポリ袋に入れて頭に載せて持ち帰り、それを元に本社で原稿を作るしかなかった」「避難所など6カ所に張り出すと、『なんだなんだ』と被災者がスタッフを囲んだ。『皆、情報に飢えていた。食料、水の次は情報だったかもしれない』と武内さんはいう」

「最初の12日付の大見出しは『日本最大級の地震・大津波 正確な情報で行動を！』。最後の17日付は『街に灯り広がる 電気復旧1万戸超す』だった」「(*米ワシントンのニュース総合博物館ニュージウムにおける)展示の言葉は、日日新聞の報道姿勢に重なる。『新聞の重要性を読者に思い起こさせ、地域紙が社会との間に強い絆を持つことを示した』」

○「ネット上の『応援』集める」(110330 読売)

「<駅員さんに『昨日一生懸命電車を走らせてくれてありがとう』って言ってる小さい子達を見た。駅員さん泣いてた>(13日午後1時4分)▽被災地へのこんなメッセージが世界中から寄せられるサイト「prayforjapan.jp」。開設されたのは地震翌日の12日だ。「やばい、泣けてきた」などの感想とともにツイッターなどで取り上げられ、閲覧回数はわずか2日で300万回を超えた。▽作ったのは神奈川県藤沢市の慶応大2年鶴田浩之さん(20)。栃木県那須塩原市で地震に遭遇した。…翌朝、ツイッターをみると、日本に向けた海外からの応援メッセージが1秒ごとに刻々と書き込まれていた。…現在は鶴田さんと全く面識のない24人が、英語など10カ国語に訳している。▽「ネットを使わない人にも読んでほしい」と、近く書籍化し、印税は全額、被災者に寄付する」

○中村伊知哉「日本の文化発信力に強み ものづくりとの複合策を」(110405 日経)

「…情報社会の中で再生するために、文化力を軸に戦略を立て直す視点が重要だ。…▽特に海外に進出しているのは、マンガ、アニメ、ゲームの『御三家』だ。マンガ、アニメともに海外で1000億円を超える売り上げをみせ、ゲームソフトの海外市場は7000億円に達するとみられる。世界で放送されているアニメの6割が日本製とされ、「ポケモン(ポケットモンスター)」は68カ国・地域で放映、中国での「クレヨンしんちゃん」の認知度は8割近いという。…▽ところが、期待に反し、コンテンツ産業の足腰は弱い」「昨年から今年にかけて、メディア環境が世界的に大きな波に洗われている。多機能携帯端末、クラウドネットワーク、ツイッターやフェイスブックなどのソーシャルサービスといったハード・ソフトにわたる構造変化だ。パソコン、ケータイ、ネットの普及以来15年ぶりの大波である」「求められるのが他業種と連携した『複合クールジャパン』策だ。エンターテインメントに家電、ファッション、食といった日本の強みを組み合わせ、総がかりで海外進出を図ることである」

○「電子書籍で被災地支援 無償公開の動き活発に」(110327 日経)

「…物流が寸断された被災地では書籍の入手は困難。通信環境さえ整えば閲覧できる電子書籍の強みが活かされている。▽ノンフィクションライターの最相葉月氏は、自身のサイトで中井久夫氏の『災害がほんとうに襲った時』を公開した」「医学系専門出版社の医学書院は、同社が発行している…を無償公開している。…▽まちづくり関連書籍などを得意とする学芸出版社は、「災害からの復旧・復興関連資料」として既刊本を公開している」「過去の蓄積を生かせるのと同時に距離を飛び越せるのも電子書籍の強み。『週刊アスキー』（アスキー・メディアワークス）は、全記事ページを無償公開する」

○阿刀田高「新しい生き方を求めて」(110327 日経)

「歴史上屈指の巨大災害、大自然の威力をまざまざと見せつける大惨事であった。危険はなお伏在し続けて油断はならない」「…多少の志があっても目下のところ、まじな援助はなにひとつできない。だが、あえて言えば、私と似たり寄つたりの立場や心境の人は全国にたくさんいるにちがいない。せめて今の志をいつまでも長く保ち続けること、それが人としての甲斐性だろう」「国家が、自治体が、大きな組織がどこまで本気になれるか、輿論を起こして執拗に訴え続け、支えていかなければなるまい。…復興に直接かかる費用だけでも莫大だが、それを支える日本の経済そのものが大丈夫とは断言しにくい。もともと下降気味であったところに、この災害だ。…経済を支えるエネルギーへの不安は、この国の命運を変えるのではあるまいか」「風評災害はその最たるもの。ものごとは結局合理的に従って進んでいく。妄信や甘い期待、根拠の薄い噂に惑わされてはなるまい。人間への愛と勇気、理性への信頼が、よりよい道を拓くことを確信したい」

「もともこの国は貧しかったのだ。貧しいからこそ“読み書き算盤”を旨として知力を高め、世界第一の識字率を誇るようにもなった。文化の面でも俳句や短歌など筆一本紙一枚で心の豊かさを培う文学を広めて高めた。一ぱいの茶で人の心と心を交わせる茶道もある。私たちには簡素であることを尊ぶ伝統がある」

○「思いを紙に書いてほしい 作家 藤本義一さん」(110401 産経)

「ぼくは昭和20年の空襲も、平成7年の阪神大震災も知っているけれど、今回ほど大変なことはないと思う。…▽家族を失った人、まだ行方不明の家族を捜し続けている人、今もたくさんおられると思う。その方たちの心をどうやって支えていけるのだろうか。ぼくは、大切な人との思い出、どこか旅行したことや懐かしい出来事など、そういう思い出を、紙に書きつづってみてほしいと思っている。▽こんなときに書くなんて、と思われるかもしれない。でも書いている間は、自分の心も少し落ち着く。癒やしにもなり、祈ることにもなる。実はそういうために文字はあるんじゃないかと思うんですよ。書いている間、大切な人はそこに生きているのですから」

○「困難な時こそ作り手に覚悟 宮崎駿氏インタビュー」(110411 読売)

「震災をまたいで作った映画として評価に値する作品にするのが最大の課題」という。…「困難な時代だからこそ、いつもより、ずっとまじなものを撮るのが作り手の覚悟だ」と強調する。…「放射能が届かないからいい、俺の所にはガソリンがあるからいいといった問題ではない。もう一度どういう国を作っていくのか、いや応なく問われる。英知を集め、若者が生き生きとし、年寄りが穏やかに死んでいける国を作っていくチャンスが訪れたと」

思うしかない」と話す」

110511yoka 講義メモ

○「被災女性に心の潤い」(110429 読売)

「…ハンカチや化粧品などを送る取り組みが広がっている。…プランタン銀座(東京都中央区)は、販売中の母の日フラワーギフトの売り上げの一部でハンカチを用意し、被災した母親に送る。…▽化粧品を届け、被災地の女性を勇気づけようとする活動もある。途上国の女性にメイクを施す活動をしている東京のグループ「コフレ・プロジェクト」では、「メーキャップキャラバン」と題し、4月12日と19日、宮城県石巻市で化粧水や口紅など、段ボール150箱分の化粧品を配った。…▽…「化粧をすることで、女性は自尊心を取り戻し、前向きになれる」と話す。実際、被災地では、手や肌が荒れている人が多く、化粧品の配布は喜ばれたという。今後、被災地の女性に化粧をするボランティアも行う予定だ。▽被災者のストレス緩和などを研究している立命館大歴史都市防災研究センター(京都市)も、リップクリームやアロマオイルなど約10点を詰め合わせた約5000セットを4月下旬までに、福島、宮城県の被災地の女性に届けた」

○「買って売って被災地支援」(110419 産経)

「…特定商品を購入すると、一定額が被災地への義援金となる仕組みだ。買い物以外にも、書籍やDVDを売ったり、インターネットオークションに参加したりすることで被災地を支援するキャンペーンもある。震災に伴う経済活動の自粛が懸念される中、消費型の支援活動として広がっている。…ミニストップ…スリーエフ…ローソン…▽…今月30日まで、ブックオフなどの店頭で本やCD、DVDなどを売る際、希望すれば買い取り金額の一部、あるいは全額が義援金として被災地に送られる。▽…楽天市場では同日(30日)まで、インターネットオークションで「がんばろう日本」という表現が入った商品を購入すると、落札額の半分が義援金となる取り組みを実施。出品する場合は、商品名に「がんばろう日本」という表現を付ければ参加できる」

○「ネット地図で「物資求む」」(110424 読売)

「インターネットの地図上に、被災者が自分の居場所と必要な物資を書き込める「必要物資・支援要求マップ 311HELP.com」が支援物資の供給に一役買っている。…マップでは、支援を必要とする人が自分のいる場所を赤い点で示し、メッセージや連絡先を記載。支援者は点をクリックしてメッセージを読み、ピンポイントで物資を届けることができる。…▽(末永さん(17)さんは)…避難所を回って必要な物資を聞き取り、マップに書き込む作業を手伝いたいと申し出た。▽現在、末永さんは高校の友人7人と手分けしてほぼ毎日、市内の避難所を自転車で回っている。当初は1日数件だった書き込みは、末永さんらの活躍で1日10数件に増えた。…▽「地図にすることで、被災地がたくさんの物資を必要としていることが視覚的に訴えられる」

○「被災文化財 保全へ苦闘」(110507 日経)

「…有名無名の多数の文化財が被災し、管理すべき美術館や博物館などの施設も大きなダ

メージを受けた。・▽(NPO法人)宮城歴史資料保全ネットワークのスタッフとボランティア。土蔵の中の歴史資料を救い出すのが、彼らのミッションだ。・▽余震が続く中、家主すら長年足を踏み入れていない蔵に入っている作業は半ば命がけ。・▽この土蔵は、幕末に蔵元商人などを務め、明治初めから紅茶製造を営んで財をなした元仙台藩士の旧家が1907年に建設した。45年の仙台空襲、78年の宮城県沖地震もくぐり抜け、1世紀以上にわたって家財を守ってきたが、今回の大震災でついに最期を迎えた。・▽同NPOは今回、早い段階から被災地での文化財救出を繰り返し、ほぼ休みなしで働いている。・

盛岡市の岩手県立博物館では今、救出された古文書の“その後”の対応に職員総出で追われている。同県陸前高田市の歴史文書「吉田家文書(県指定文化財)など、津波で水没した多数の古文書や書画の修復に、想定外のマンパワーと設備が必要となっている。・▽・海水と砂、泥に1カ月近くさらされた紙の修復には、気の遠くなるような作業が必要だ。・

長く岩手県南東部の旧気仙郡を統治した名家の118年に及ぶ日誌や村々の絵地図などからなる「吉田家文書」は、東北の第一級史料として地元の古文書研究会の会員たちが長年苦勞して現代語訳を進めていた。ところがあと少しで完成するという段階で震災に見舞われ、訳文の原稿は波にのみ込まれた。「それでもご高齢の会員がまた一から訳し直すと言っている。こちらをあきらめるわけにはいかない」・▽・被災文化財の救出と修復には、文化財自体の歴史的な価値に加え、被災者の郷土に対する誇りを後世に守り伝えたいとの思いをつなぎ留める役割もある」

○「紙、インキ不足 発売中止相次ぐ」(110502 毎日)

「出版業界は今回、“生命線”ともいえる「用紙」と「インキ」の製造工程が直撃を受けた。・▽一方で、書籍の店頭での売り上げは震災後1週間は震災前より2割近く落ち込んだが、2週目以降は東北地方を除いて震災前を上回り続けているという。調査した出版科学研究所の担当者は「未曾有の時こそ本が心の支えになるようだ」と分析している。▽日本書籍出版協会、日本雑誌協会、日本出版クラブの3団体は3月23日、「<大震災>出版対策本部」を発足させた。日本出版取次協会、日本書店商業組合連合会も加えた5団体を活動母体にする事も決めた。・▽「心の栄養」としての本を届けたい、という思いが出版業界には強くある。・

福島市在住の詩人・和合亮一さんは、3月16日から毎日、ツイッターで「詩の礫(つぶて)」と題して詩を発表し続けている。▽「15日の早朝に(福島第1原発)1号機、3号機に続き4号機でも、水素爆発がありました。死ぬことを強く感じ、ぎりぎりに追いつめられた時、大量の言葉が湧きあがってきた。それを書きつけ始めたのです」と語る。「“書けない”との声も聞きますが、詩人たちよ、今こそ書く時だと言いたい。いま起きているスケールに立ち向かうには、これまでの自分の詩の作法をぶん投げないと書けない。そうやって書く中に思想が宿る。思想とは、これからの生き方、考え方です。・

作家・重松清さんは「大震災を経た後の小説ということ考えた時、求められるのは「創造性じゃないか」と言う。▽「いままで僕は小説で、世の中の流れに対しアンチテーゼを挙げ、『それでいいの』と問いたかった。でもいまは、警告でなく前へ向かうための言葉を見つけないか」と語る。「作るのに時間はかかっても、小説に限らず、すべての創作物は前に進む力を求められるのかもしれない。アンチテーゼを挙げるのではすまされない」

○「いまこそ歌舞音曲」(110423 朝日)

「死や自然災害など、どうしようもないものに対する恐怖と折り合いをつけるために、宗教や芸術というものがある。ただ、宗教は価値観を固定化するけど、芸術は抽象的だから、むしろ価値観をどんどん多様にしてゆく。・▽自然に対する人間の漠然たるセンサーが感知したものを、言葉に変換せず、そのまま出すのが踊りや音楽。でも、現代社会の過剰な情報はそのセンサーを摩耗させている。だから、多様な見方が可能なのに、一方的に合理性を押しつけてすぐ否定する、ということが起きてくる。・▽・純粋な鎮魂の気持ちを、自粛って方向で、ひょいって簡単に解決されちゃうのが面白くねえんだ。なぜ東北の人たちがあんなに死んでオレが生き残ったんだ、何をすればいい、わからない、っていう迷いを持ち続け、ひとりひとりが己なりのやり方を探すのが「悼む」ってことじゃあないのかな。・▽震災は被災地の遠くにいる人たちの胸にも深く矢を突き刺した。日本人みんなで十字架を背負ったんだ。だからこそ、心を癒やす花が求められている。▽オレたちは淡々と踊り続けるよ。死や自然を畏れて祈り、祈るために踊るしかないんだ」(舞踊家 磨赤児)

「(*阪神大震災の時) 多くの芸人さんを抱え、彼らや家族の安否確認に追われたのも確かですが、どこかでそれを言い訳にしていたのかももしれない。当時の雑誌に、吉本興業は意外と冷淡だったみたいな記事が出て、個人的に恥じ入った。▽ぼくらの仕事は大きな雇用をつくり出すわけでも、国内総生産を押し上げるような効果があるわけでもない。お笑いというのは、伝統芸能とかよりもさらに一段低く見られている。▽けれど、明日の見えない戦場で、兵士たちはふざけた歌をうたったり、面白いことを言い合ったりする。炭鉱で作業するチームの中でも、採掘作業をせずにムードを盛り上げるだけの人が、重要な意味を持っていると聞きます。そんな手応えは芸人さんや現場のスタッフなら、肌感覚として分かっている。・▽歌や笑いは、根底に愛情というか、人と人との心のつながりがないと成立しないんです。吉本興業の公共性は、芸能を通じて、この心のインフラを確保することにある。現実がどんなに荒れ狂っている時でも」(吉本興業社長 大崎洋)

「3月末の(*子供たちの)演奏会が会場側の意向で中止になったのが本当に悔しかった。一生懸命練習してきた子供たちのことを思うとやりきれない。被災地の子供と同じように、東京の子供たちだって傷ついている。音符や言葉を介さず、音と自らの心を直接結ぶ回路を、子供たちは持っている。遠くの人を思いながら音楽を奏でる経験は、子供たちに、真の音楽の力を知ってもらう最高のきっかけになったはずなのに。・▽ラジオやネットがあるから、被災地の人にも音楽を届けられる。CDもいいけど、リアルタイムの演奏を送らないと、本当のメッセージにはならないと思う。そばに行ってもあげられないけど、あなたたちのことを思い、演奏しているんだよ、と」(指揮者 松尾葉子)

○近藤誠一「文化と芸術を復興の軸に」(110420 朝日)

「インドネシア・バリ島の棚田が「ライステラス」として観光客を集めるように、伝統的な生業はそれだけで価値を持つ。村の個性あるたたずまい、絆を保つ祭り。都会に去った

若者もいったん帰れば、ほっとする故郷だ。▽フランスのナントは造船所の閉鎖で衰退したが、文化の振興で再生し、フランス人が最も住みたい都市になった。安価に楽しめるクラシック音楽祭の成功は有名だ。英国グラスゴーも先進的なデザインの建築などで活気づき、「欧州文化首都」にも選ばれた。▽芸術家の地域参加による活性化の効果は欧米で実証済みだ。▽文化の尊重は自然との共存を探ることでもある」

○「知の現場 爪痕深く」(110412 読売)

「何しろ 100 万冊が崩落したというのだから、尋常ではない。▽そこには「知」が秩序を失い、拡散する光景があった。▽印象的だったのが、本を片づけるべく、黙々と汗を流す学生ボランティアたちの姿。▽「▽東北大生として何ができるのかと考えた時、図書館を立て直そう、と思い立った」▽「大学から車で 30 分も走れば、遺体が何百体も上がった若林区荒浜地区に着いてしまう。この科学者は皆、本当に人間を幸福にする科学とは何なのか、と問い直しているはず」▽いまだ新学期が始まらないキャンパスは、どんよりと重かった。だが、それは落胆によるものではなく、震災を体験した大学ならではの、東京にも京都にもない新たな「知」を生み出す責務を負った重さのように感じられた」

「福島県内だけでなく、国内屈指の音響設計で知られるいわき芸術文化交流館アリオス。約 1800 の席数を持つ大ホールにのぼる階段の脇には、食料などが詰められた救援物資の段ボール箱が置かれ、ロビーの手すりには洗濯物も干されていた。震災から 2 週間以上たった 3 月 27 日、どっぷりと日常の生活色が染み込み、芸術文化ホールとして非日常の光景が眼前に広がっていた。▽そもそも芸術文化ホールは通常の建築物と比べ、音響設備や舞台装置がある関係上、耐震力・安全性は万全とは言い難い。アリオスも、舞台壁面を取り囲む総重量 100 トンにもなる反響板など、安全が十分に確認できるまで、と大ホール自体は門扉が閉ざされたままだ。▽市の防災機能の中核を担っている。本来の芸術文化という目的ではない使われ方ではなるが、人が集まる機能を持つホールが、社会的にどう位置づけられるのか、その根本的なあり方について多くのことを考えさせられた」

○島田雅彦「ほころんだ世界、コトバで結ぶ」(110420 産経)

「▽デマ、風評被害などコトバによる二次災害に対抗しうるのはやはりコトバだ。コトバはうまく使えば、ほころんだ世界を結び直し、絆を育むことができる。その一助となることを願い、「ほぼ週間」で作家たちの生の声を配信する無料ウェブマガジン「Words and Bonds」(*「復興書店」で検索するとアクセス可)を創刊した。収益の取り分を巡って牽制し合い、なかなか前に進まなかった「電子出版」への移行が早まると噂される中、「紙の本」を売り切った後は、電子書籍の制作・販売もチャリティに盛り込みたいとも思っている。復興書店の活動は今年いっぱい継続し、被災地の状況を見守りながら、震災によって蔵書を失った公共図書館や学校図書館の求めに応じて、復興書店コレクションを寄贈したいと考えている。

○「本よ届け」「コミック誌 無料でネット公開」(110420 読売)

「震災直後、日本出版取次協会のまとめでは雑誌、コミック合わせて約 450 誌の発売が延期または中止された。▽書協(日本書籍出版協会)が、医療や看護などの情報をインターネットで無料公開するよう出版社に要請したり、読み聞かせ用などのため、図書館から被

災地へ出版物のコピーをファックスで送る特例を認めるよう著作者団体に働きかけたりするなど、本による支援の輪が広がりつつある」

110525yoka 講義メモ

○「経済成長へ 観光客誘致」 (110509 日経)

「主要国には外国人観光客が列をなす美術館や博物館がある。日本は例外で、浮世絵も日本画もポップアートも中核と呼べる常設展示がない。日本文化への関心は高く、国内には6000カ所もの展示施設がある。要するに行政の総合的な戦略がない。観光誘致のキャンペーンだけでは国際旅行収支の大赤字は縮小しない」

○「野外バレエ 慰問ツアー」 (110513 読売)

「大震災の被災者を踊りと音楽で癒やそうと、山梨県・清里高原で毎夏開催されている野外バレエ「清里フィールドバレエ」の主催者らが12日、岩手県宮古市から東北の被災3県の慰問ツアーをスタートさせた。6月3日までに避難所20か所を訪問する予定。

東京八王子のバレエ団「シャンブルウエスト」のミニステージと、世界最大級とされる自動演奏のストリートオルガン (高さ2.6m、幅6m、奥行き2.2m) の演奏を披露する。

府金さんは舞台上で「私の方が元気をもらいました。時間はかかるかもしれませんが、宮古の皆さんが一つひとつ前に進めるよう、応援しています」…私たちも被災地に来て、「亡くなった方の分も一生懸命に生きなくては」と感じました」…

○「被災美術館、続々再開」 (110512 毎日)

「…福島県立美術館 (福島市) ……常設展示では「ふるさと・再生・祈り」と題したコレクション展で、斎藤清ら郷土作家の絵画や版画、写真作品のほか、ヤノベケンジさんらの現代美術作品も展示している。ふるさと再生を誓う美術館の思いが伝わってきた。

宮城県美術館 (仙台市) …「今は『美術館が開いている』という事実が皆さまの安心材料になる」…

岩手県立美術館 (盛岡市) …今年度の企画展予算がすべて復旧関連に回され、全企画展の中止を余儀なくされた。予定されていた岩手ゆかりの福田繁雄展や舟越保武展は、来年度以降への開催延期を模索するという。…「…今後は沿岸部に出向いてのワークショップや、そこで完成した子供たちの作品展示などを検討したい」…

…特に被害が大きかったのは、岩手県石巻市の石巻文化センター。津波が1階天井近くまで達し、所蔵する民俗資料や絵画、彫刻作品の一部が水をかぶったという。…

影響を受けたのは被災地の美術館だけではない。…

美術品の救出活動も始まっている。石巻文化センターには先月、文化庁を中心に東京文化財研究所などで組織する「文化財レスキュー」が現地入りした。美術作品の救出を担当したのは、全国美術館会議。…

16年前の阪神大震災当時から大きく進化したのは、ツイッターなどを通じた連携だ。その一つが、美術館や博物館、図書館、公民館などの関係者が文化財救援に関する情報を共

有するサイト「saveMLAK」(<http://savemlaki.jp>)の発足だ。・・「地域の図書館や公民館の多くが複合施設としての機能を有する今、個別の討議では限界がある。複合的な視点が大事」・・▽・・3月29日、衆院本会議での「展覧会における美術品損害の補償に関する法律」(美術品国家補償法)の成立・・」

○「原発依存への警鐘 漫画 映画 音楽 改めて注目」(110502 毎日)

「今、インターネット上で無料公開され、多くの読者を得ているのが、漫画家、山岸涼子さんの「パエトーン」だ。ギリシャ神話の少年の名を冠したこの作品は、「神の火」原子力の潜在的な恐怖を、暴走する太陽神の馬車がすべて焼き尽くそうとするさまになぞらえて描く。

最初に月刊誌に掲載されたのはチェルノブイリ原発事故から2年後の88年だが、福島第1原発の事故直後からネット上などで話題になった。これを知った山岸さんの意向で、3月25日に版元の潮出版社が電子書籍としてサイト上に公開したところ、先週までに60万回を超えるアクセスがあったという。・・

・・黒沢明監督晩年の映画のひとつ「夢」(90年)。8本のエピソードのうちの第6話「赤富士」では、黒沢監督の核への怒りが生で表れる」・・▽・・「赤富士」では、放射性物質に着色する技術が開発された、との設定を盛り込み、主人公が赤や黄の煙を懸命に払う姿が描かれる。・・

〈東海地震もそこまで来てる けどまだまだ増えていく 原子力発電所が建っていく さっぱりわかんねえ 誰のため?〉。キヨシローが、エディ・コ克蘭の「サマータイム・ブルース」にこんな日本語詞をのせ、あの声で歌い上げたのが88年。故・忌野清志郎さん率いるRCサクセションのアルバム「カバーズ」の中の一曲だ。

同じく核への「NO」を突きつけた「ラヴ・ミー・テンダー」なども収められたこの作品は当初、8月6日の広島原爆忌に発売予定だった。が、・・」

○「脱原発ブログ大反響 「社会システム変えよう」 中学生アイドル藤波心さん」(110521 下野)

「3月23日付の文章のタイトルは「批難覚悟で」・・」。14歳らしい文体と、14歳とは思えない論理的な内容で「原子力に頼らない電力の生活に社会全体のシステムを変えればいいのです。変えられますよ」と訴える。・・

反響は瞬く間に広がった。ツイッターで作家の高橋源一郎さんが「地震発生以来、ぼくが読んだもっとも知的な文章」と書き、ソフトバンクの孫正義社長も取り上げるなど、賛同する声次々と上がった。・・

一方で、心無い中傷でブログのコメント欄が“炎上”。・・

・・それでも1万3000件を超える賛否両論のコメントはすべて読んだ。「原発をタブー視せず、思っていることを話せるようになるきっかけになれば」と、文章とコメントは削除していない。

ネット上では「反原発のジャンヌ・ダルク」と注目を浴びるが、本人は「私はまだ無名のB級アイドルで微々たる力しかありません」と冷静だ。

・・「これからも思ったことを伝えていきたいし、歌ったり踊ったりすることで、少しでも力になりたい」・・」

110601yoka 講義メモ

○「怒りや悲しみも言葉に宿して」（110525 産経）

「震災で福島市内の自宅は無事だったが、教師となり 20 代を過ごした南相馬市は津波で甚大な被害を受けた。「詩の礫」を始めたのは、5 日後の 3 月 16 日。福島第 1 原発の放射能漏れへの危機感が強まる中、「自分が生きた跡を誰にでもいいから渡したい」と思ったからだ。断続的な余震の中、毎日 2～3 時間はパソコンに向かった。ツイッターの書き込みを読むフォロワーは当初 171 人だったが、現在は 1 万 3000 人超に膨らんでいる。

<胸のポケットから、千円札とメモ用紙が出てきた。地震の前の 1 日が悲しい><あなたも私も、歴史の連結点なのだ。子どもたちのために、生きよう。働こう。泣こう。笑おう>。怒りや喪失感の中に懸命に前に踏み出そうとする決意がにじむ。

震災を機に「物の見方も詩のスタイルも変わった」という。「言葉にできるのは『未来を一緒に歩こう』と伝えること。怒りや悲しみをもっと詩に宿しないと、今の日本人が抱える感情の本質を見いだせない」・・

「福島県にゆかりがある音楽家や詩人が 8 月 15 日、福島市の公園「四季の里」で野外フェスティバル「FUKUSHIMA！」を開く。

○浅田政志「無数の思い出を返すため 岩手県野田村」（110525 産経）

「3 月 11 日の出来事について、テレビやインターネット、新聞やラジオを通じて、離れながらにして情報を得ることはできた。だけど、東京に住んでいる自分は一体どれだけのことを知ることができているのか……。伝わってくる話をどこか他人事のように感じている自分がいて、地震後ずっとうしろめたい気分だった。大変な目に遭っている人の気持ちを理解できているとは到底思えなかった。・・

・・村役場に歩いていくと、玄関わきに、写真が大量に集められた場所があった。僕よりも一回りほど若い男女 4 人が、瓦礫のなかから拾われてきた写真を黙々と洗浄している。・・

・・村を故郷とする青年たちが深く傷ついているのが手に取るように分かった。でも自分の気持ちを抑え込みながら、村のみんなのために、と働いていた。

話の途中で、僕がいつも写真を撮っているといたら一人の青年が「いつか野田がきれいになったらぜひ写真を撮りにきてください」と僕に言った。その一言がずっと鮮明に残っている」

○「動物避難させ餌も供給」（110521 産経）

「・・餌・電力・水の不足と闘いながら小さな命を守り続ける現場の声を、全国 153 の動物園と水族館が加盟する「日本動物園水族館協会」（JAZA、東京都台東区）が集約。加盟施設に協力を呼びかけ、飼料輸送や動物の保護などの調整にあたった。・・

JAZZは「動物の保全は一つの施設だけではできない。全国の施設はネットワークでつながっており、非常時には同じ目的を持った人たちが動く」と緊密な連携の重要性を指摘する。・・」

○「被災地と支援者結ぶ アート復興 NPO機敏」(110521 日経)

「被災地で活動したいと思うアーティストは数多い。現地のアート関係者と全国のアーティストや支援者を結ぶネットワークが必要だ。ところが、行政機関は救援で手いっぱい。その空白を埋めるのが、アートNPOや民間の団体だ。

・・仕事の無い舞台スタッフに仮設住宅建設の職などを求めているという。・・

・・キャラバン隊を組んで岩手、宮城の沿岸部にある小学校やショッピングモールを巡回。子供たちのために宮沢賢治の「セロ弾きのゴーシュ」を短編劇にし、「星めぐりの歌」を演奏した。「子供たちはとても真剣だった」という。・・

・・地域の内発的発展と結ぶ文化の力が試されるのはこれから。・・」

○岸義紘「牧師が祈りのサクソ」(110520 日経)

「若い牧師の育成に情熱を注ぐ傍ら、1995年からボランティアで全国を回り、サクソの演奏会を開いている。教会、病院、刑務所、老人ホーム。その回数は2000回を超えた。・・

・・巡回牧師として各地の教会に赴任した。聖書の教えを説くのだが、教会にはクリスチャンではない方も来られる。説教だけでは飽きられてしまうので、20代のころ取り組んだことがあるサクソ演奏を入れようと考えた。

最初の45分はサクソを吹き、あとの45分で説教をする。そんな私なりのやり方で、徐々に教会に来る人に楽しんでもらえるようになった。

ちょうどそのころ、韓国系米国人のサクソ奏者、キム・ヨンイルさんのテープを聴く機会に恵まれた。・・・

キムさんと並んで私が目指していたのが「ハーレム・ノクターン」で有名な米国のサム・テイラー。低音を効かせた官能的な音色にあこがれた。・・

教会、病院、刑務所、老人ホームなど、毎週末は必ずどこかに出向く。自家用車に3本(*テナー、アルト、ソプラノ)のサクソとスピーカー、アンプを積んで一人旅。年間の走行距離は4万^{km}を超える。一度旅に出ると2~3週間、神奈川県小田原市の実家に帰れない場合もある。

以前は年間100回以上をこなしたが、最近では50回程度。この5月は、東日本大震災で被災した東北地方の教会や避難所を回っている。・・

8月には70歳になる。今は毎日午前4時に起きて8時まで、ライフワークにしている新約聖書の解説書を執筆。その後4時間、サクソの練習を続けている。30歳のころから始めた水泳の効果もあって、あと10年は今の演奏スタイルを続けられるだろう。サクソと水泳の呼吸法は共通点が多いからだ。80歳でベスト選曲集を出すのを目標にして、活動していきたい」

○五十嵐大介「ネット社会 オフライン生き抜く地力」(110603 朝日)

「震災の時、ツイッターが役に立った」

被災地取材から東京に戻った3月下旬、その言葉に違和感を抱いた。被災地ではツイッターはおろか、携帯電話する全く使えず、情報の「孤立状態」に陥っていたからだ。・・

「災害時につながらない携帯なんて、何の意味もない」。怒りにも似た声を、現地で何度も聞いた。・・

一方で、被災地には、都市にはない「リアル」の強みがあった。漁師や農家の人が自らの手でとったホタテやキノコを食べ、大工が廃材でトイレや風呂を造り上げる。その土台に、地域の強い絆がある。戦争直後の焼け野原のような環境での生活を支えたのは、人間の地力だった。・・

・・人間関係が希薄な都会で、情報の糸が切れる衝撃は、東北と比較にならないほど大きい。都市部こそ「オフラインの備え」が必要になる」

○「被災の子 笑顔咲く」(110529 産経)

「東京・六本木ヒルズアリーナで28日、東日本大震災大震災プロジェクト「MERRY SMILE ACTION」が行われ、約200本の笑顔の傘が咲いた。

笑顔の子供たちはいずれも震災の被災者。グラフィックデザイナーの水谷孝次さんが、「子供たちの笑顔で希望の光を増やしたい」と、これまでインドネシア・スマトラ島や中国・四川省、神戸市で撮影してきた作品だ。

今回、福島県いわき市と宮城県東松島市の避難所などで撮影した31人の笑顔が新たに加わった」

○「ブログで被災地の情報発信を続ける宮古の漁師 平山政幸さん」(110603 朝日)

「3月11日は浜に近い自宅にいた。妻子に高台に逃げるよう伝え、着の身着のまま父と漁船へ。

大きな揺れから10分余り、津波から船を守るために全速力で沖へ走らせた。ポケットに入れていた携帯電話で、揺れる船上、岸に押し寄せた津波を必死に撮影。6年前に始めた「漁師の徒然(つれづれ)なるブログ」で発信した。津波の襲来、廃墟の町、避難所、漁再開。以来、1日も休まず書き続ける。・・

「毎日を積み重ねてどんどん先に進む。それしかない」。家や家財道具を失いゼロからのスタートに、そう決意した。・・」

○「ブライダル需要 増加」(110530 産経)

「東日本大震災以降、ブライダル関連の需要が増加している。ホテルでは「自粛」で宴会やイベントが軒並みキャンセルとなる中、結婚式の予約だけは堅調だ。婚約・結婚指輪の売り上げも増加傾向にあり、結婚情報紹介サービスでは、首都圏の女性を中心に相談・成婚件数が急増。・・

・・結婚情報紹介サービス大手のオーネット(東京)では首都圏を中心に結婚を意識する

女性が増えている様子がうかがえる。

4月の資料請求数は、全国で前年同月比15%増だった。中でも関東・首都圏の女性は24%増で、特に20代女性の問い合わせが目立った。・・

・・ジャーナリストの白河桃子さんは「震災で多くの人が『一人では生きていけない』と痛感した。政府は信用できず、いざというとき頼りになる、価値観の合う人と家族になりたいと、結婚に踏み切る人が増えたのだろう。ただ景気の先行きが見通せないため夫婦共働きが基本の結婚観に切り替えられないと、ブライダル需要が一過性に終わる可能性がある」・・」

○「急減来日客 回復厳しく」 (110530 読売)

「韓国・平昌で開かれた日中韓観光相会合で、中韓側は日本の「観光再生」のために支援を惜しまない姿勢を強調した。来日観光客の急減に苦しむ日本だけでなく、中国、韓国の旅行業界も商機を失っているためだ。

・・会合では3か国間を行き来する人の交流を、2010年の1656万人を15年には2600万人に引き上げる目標を改めて確認した。・・

都内で開かれた日中韓首脳会談に先だち、中国の温家宝首相、韓国の李明博大統領が被災地を訪れたのも首脳が「安全」を強調する試みだった。中国・国家観光局はJTBの中国合弁会社に、中国人の外国旅行業務の取り扱い免許を与えた。・・・」

「・・観光庁の推計では、10年に来日外国人が消費した金額は1兆1490億円。（*2019年に）「2500万人」を達成すれば約4兆円の消費につながり、関連産業も含めた経済波及効果は10兆円規模に及ぶ見込みだ。・・

独立行政法人・日本政府観光局は海外の旅行会社やマスコミ関係者を日本に招待している。・・」

○「ハルヒが映す「自画像」」 (110531 朝日)

「・・「ハルヒ」のヒットの特徴は何か。・・

・・背景に若いオタクの求める物語のトレンドの変化を見る。最終戦争や架空年代記といったファンタジー世界を綿密に作り上げる作品より、理想化された学園生活に込められた自画像のような作品に、支持が集まる傾向が強まっているという。ファンは物語を通して、「日常のなかに潜む非日常」を求めるように変化したというのだ。・・

・・流れが変わったのは04年ごろ。オタク男と美女の「電車男」ブームが起きるなど、「見た目より関係性に萌える」ようになった。・・

関係性には現代的な特徴も映し出される。「コミュニケーションが過剰な割に、人間関係は『彼氏と彼女』までに至らない。決定的な関係性まで踏み込みたがらない若者たちが、共感して読んでいるのではないか」・・」